

Green Brave

10th Anniversary

Powered by **HANKOOK**
driving emotion

Super Taikyu 

Japanese Endurance Race

 **ENEOS**

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022

Powered by Hankook 第3戦

SUGO スーパー耐久 3時間レース

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

2022年7月9日(土) ~ 7月10日(日)

スポーツランド SUGO (宮城県村田町)

予選2位からスタートし優勝争いに加わるも悔しい4位

予選日(土曜日)の天候は雨。降ったり止んだりの繰り返しで、タイヤ選択が難しいコンディション。2連勝中のクラウンRSにはクラス最大50kg(前戦から25kg増)のウエイトハンデが積まれており、その影響も気になるところ。

Aドライバーの予選は12時30分から行われ、服部選手はドライタイヤを履いてコースイン。他クラスのクルマに引っかかる不運はあったものの、3周目に1分31秒511をマークし、3位につけました。1時間後に行われたBドライバーの予選。雨が降り出しましたが、レインタイヤが必要になるほどではなく、吉田選手は1分30秒966をマーク。2位につけ、両ドライバーの合算タイムにより、予選2位の好位置を獲得しました。Cドライバー、川合選手は決勝を見据えた走り込みを行い3位。

決勝日(日曜日)の天候は晴。3時間の決勝レース中、2回のドライバー交代を伴うピットインが義務付けられているため、チームは吉田、川合、服部とつなぐレースプランを作成。アクシデントなどによりセーフティカー(SC)などが導入された場合は、すぐにピットインを行い、ジャンプアップを狙います。吉田選手は順当なスタートを決め、2位でオープニングラップを終了。ホームストレートで予選1位の#311フェアレディZにアウトから仕掛けますが、抜くことはできません。2周目、他クラスのクルマが煙を出してコース上にストップ。4周目にセーフティカー(SC)が導入され、オイル処理が行われます。7周目に#39 RC350がピットイン。1回目のドライバー交代を行いますが、燃費で劣るクラウンRSがピットに入るのは早すぎるため、吉田選手は隊列走行を続けます。9周目からレース再開。吉田選手はすぐ後ろの#63 RC350から攻め立てられますが、ディフェンスしながらポジションをキープ。その後、後続を引き離すものの、トップの#311フェアレディZとの差も拡大します。31周目にトップの#311フェアレディZがピットに入り、吉田選手はトップに浮上。44周目にはクラウンRSをのぞく全車が1回目のピットインを終えますが、吉田選手がピットに入る気配はありません。結局、SCの再導入はないまま、吉田選手は51周目にピットイン。川合選手に交代し、給油とタイヤ交換を行い、4位でコースに復帰します。

川合選手はウエイトハンデの影響を感じながらも力強いペースで周回。クラウンRSをのぞく全車が2回目のピットインを終えた72周目、再びトップに立ちますが、1回のピットインを残しているため、最も早く2回目のピットインを終えた#39 RC350が有利な状況です。川合選手はレース終盤まで走行しますが、波乱が起きることはなく、101周目にピットイン。2位の#39 RC350とは47秒差です。服部選手に交代し、わずかな給油のみでコースへ復帰する予定でしたが、服部選手のシートベルトがスムーズにはまらずタイムロス。この間にトップは#39 RC350、2位は#311フェアレディZに入れ替わり、服部選手は3位でコースに復帰します。服部選手はあきらめずに前を追いかけますが、2ステイント目となる左のフロントタイヤが限界を迎えており、コースにとどまっているのが精一杯の状況。残り2周で#25フェアレディZに抜かれ、4位でチェッカーを受けました。優勝は#39 RC350で、SC中のピットインで稼いだ時間が勝敗を決定づけました。第4戦は7月30日~31日、オートポリスで行われます。

決勝結果 (ST-3 クラス)

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

(服部尚貴 / 吉田広樹 / 川合孝汰)

決勝: 4位 (108周、3時間00分46秒257)

予選: 2位 (合算タイム3分02秒477)



DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】

左前のタイヤがスローパンクチャーしていたのでどうしようもなかったです。最初のSCの時にライバルが1回目のピットに入ったのですが、それぐらい燃費の違いがあります。結果として一番前に行けなかったですが、しょうがないですね。今回、50kgのウエイトを積んでいたのですが、25kgぐらいまでならそれほど意識せずに走れるのですが、50kgになるとドライバーにはわかるレベルの重さです。今年初の表彰台以外でのフィニッシュでしたが、次のオートポリスで頑張りたいと思います。

【吉田広樹選手】

スタート直後に前へ出られればと思い、ちょっとだけ頑張ったのですが、全然その傾向はなかったです。あとはもう守るといえるか、2位でも仕方ないかなと思いき、SCやFCYをうまく使ってトップを狙うという走りに切り替えました。気温とウエイトがきつ、途中からタイヤのグリップとの戦い。アンダーステアもオーバーステアも出ました。最終コーナーが登りなので、ウエイトの感覚が大きかった感じでした。自分の役割はタイヤを守り、最後まで走り切ることだったので、そういう意味ではできたと思います。

【川合孝次選手】

路面温度と気温が高く、かなりタイヤが厳しいのと、50kgのウエイトがかなり効いていました。後半はかなり厳しかったですね。前半の長いSCの時、他車が先にピットに入ったのは燃費がいいからで、その時の差が大きく、あとあと順位が入れ替わってしまった感じでした。ぼくから服部さんに代わるタイミングで、シートベルトがうまくはまらず、そこでのロスも大きかったです。もう少し前で送り出せたような気もするので、そこはもったいなかったなと思います。

MECHANIC VOICE

【レクサス熊谷南・松原一貴】

一昨年と去年、86のワンメイクレースに参加したことはありますが、S耐は初めてです。52号車のクラウンは内装、足まわり、エンジンルームが市販車とは全然違うので、見慣れないというか。勝手が違いますね。ピット作業の担当は給油で、ガソリンを扱うので危険を伴いますが、消火器担当が常に隣にいてくれます。みんな仲が良く、チームの雰囲気は良いです。今回のレースで得たことはどんどん活かしていきたいと思ひますし、自信もつくと思ひます。

ST-3 クラス 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	エアバスター WINMAX RC350 55 ガレージTWS(レクサス RC350)	108周
2位	Team Fukushima Z34(日産 フェアレディZ)	108周
3位	raffinee 日産メカニックチャレンジ Z(日産 フェアレディZ)	108周
4位	埼玉トヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	108周
5位	岡部自動車フェアレディ Z34(日産 フェアレディZ)	108周
6位	muta Racing LEXUS RC350 TWS(レクサス RC350)	107周

出走6台

ST-3 クラス ポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	87
2位	39	TRACY SPORTS with DELTA	79.5
3位	311	FKS team fukushima	58
4位	63	TRACY SPORTS	45
5位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	41
6位	25	TEAM ZEROONE	21

参戦6台

PARTNERS

 赤城車体工業株式会社 akagi body industry Co.Ltd. http://akagipeta.jp	 EMG ルブリカンツ合同会社	 株式会社エヌ・ティ・コーポレーション	 株式会社 FM NACK5
 株式会社岡崎巧芸	 株式会社カーグラス・JP	 株式会社カロッツェリアジャパン	 埼玉群スリーボンド株式会社
 株式会社三和広告社	 JU 埼玉オートオークション株式会社	 株式会社西武ライオンズ	 株式会社タンエイシャホールサプライ
 株式会社デンソーソリューション	 株式会社ドーム	 トヨタホーム東京株式会社	 富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社
 株式会社プロモーション	 株式会社プロモーション	 丸和工業株式会社	 Mechanix Wear LLC